



NO. 2339

船橋会

# わがまちの防災対策

船橋会会長  
高橋 重信

はじめに

七月に発表された国の新しい防災基本計画によると「国や自治体だけに頼る防災には限度がある。自らの安全は自ら守る自覚を持つことが『防災の基本である』としています。多数の死



傷者を出した阪神大震災での救援活動でも近隣住民の自主活動で多くの人がびとが救助されております。何より大事なものは、地域住民と行政の協力と考えます。私共町会も、そのことを基本にして参りたいと思っております。

### 家庭では

「地震は突然襲ってくる」それだけに普段の備えとして、扉や家屋の点検、家具の転倒防止、家庭内での話し合い、非常備蓄として三分の食糧と水の確保をお願いしたいと思います。

### 地域では

地震のゆれを止めることはできません。落ちついて身の安全と火の始末(初期消火)に努めること、町の協力体制の確立(近隣の人々が助け合うこと)が必要です。このことを町会を母体とした自主防災組織で検討し、充実させていきたいと思います。

### 防災の組織として

船橋会は昭和22年11月防犯・防火を主体とした自衛親睦団体として発足し、以来船橋一・二・三・四・七丁目の地域内居住者、学校、工場、病院、事業所をもって組織しており、組長、部長が核となり活動しております。

## 私のまち 好きなら 皆がささえる 国勢調査

10月1日、全国一斉に国勢調査が行われます。

国勢調査は、大正九年から5年ごとに行われ、16回目に当たる今回は、21世紀の日本を考える基礎資料の提供という特に重要な意味があります。

調査の結果は、国や都道府県・市区町村が、これからの行政を考えていく大切な資料となり、私たちの暮らしの様々な分野で生か

す。十世帯から十五世帯を一組とし、町会内には計二百八十組がおります。十組から十五組で一つの部とし、全部で25部になります。組長にはヘルメット、メガホン、腕章を、部長および11人の役員にはさらに加えてラジオ付きライ

ト、救急箱(20人用)を渡してあります。組長、部長等の交替時には引き継ぎの点検を行い、不足物品があれば補充するよう



ほかに平成四年には、全世帯に三角巾を、平成五年にはローソクを、今年にはバケツを配り防災体制の強化に努めていきます。

常会で防災討議 毎月の定例会では部長および役員が集まり、通常の議題のほか避難所や情報の伝達など必ず防災をテーマとして討議を重ねております。

### 防災備品等の整備

当町会が保有する備品等は船橋商店街振興組合事務所に担架二台、船橋消防団詰所に担架三

れていきます。

赤ちゃんからお年寄りまで日本に住んでいるすべての方が調査の対象となります。

9月23日から調査員が皆様のお宅に調査票を配布いたします。集合住宅などに一人暮らしの方、下宿している方は、一人ひとりご記入してください。

調査票にある項目は17。お答えいただいた内容は、統計以外の目

台と五升釜四セット、船橋神明神社に担架二台と五升釜二セットそして天幕、拙宅に五升釜二セットなどです。

震災時指定の井戸は十六カ所ありますが、これからも増やしたいと考えております。

### 拠点・避難場所

当町会では、震災時の拠点を情報伝達が可能な船橋出張所と定めています。東京都が指定する広域避難場所六十三号は明大グラウンド一帯となっていますが、船橋七丁目全域が広域避難場所に含まれています。家屋が倒壊したり火災で罹災した人のみが一時的集合場所へと指導しており、船橋一丁目児童遊園・船橋三丁目の池田児童遊園・船橋神明神社、宝性寺・千歳丘高校・船橋中学校・船橋小学校がそれにあたります。行政の避難命令がなく、また「雨露」がしるげの場所であれば広域避難場所へ行く必要がないと話し合いで決めていきます。



### 防災予算

当町会としての防火防災の予算は、本来の予算とは別会計として、非常用積立金三百七十万円を含め五百万円としております。

### 他団体との協力

日赤奉仕団とボーイスカウトからの協力の話がありましたので、引き続き詰めを行っていきたく思います。



的に使用することは法律で固く禁じられており、またプライバシーも守られます。安心してご記入のうえ、ご提出してください。調査票は、調査員が集めに伺います。外出がちな方は家にいらっしゃる日をお伝えください。皆様のご協力をお願いいたします。

「総務庁統計局・世田谷区」

# 地域めぐり

## ■ 古道・新道のまとめ ■

わがまちを歩いてみたら

前回までに古道として瀧坂道と鎌倉道、昭和に入って整備された荒玉水道道路と千歳通り、希望丘土地区画整理事業で造成された環八と補助54号線を歩いた。今回は昔からある船橋仲通りと廻澤仲通りを歩いてみた。それらの道路をまとめてみたのが左図である。

### 船橋仲通り

路とほぼ同じ地域を通る昔からある道である。北の船橋5丁目地域では、希望丘通りの延長として、水道道路から赤堤通りまで拡幅が進められている。船橋出張所前には消防機材置場や火の見やぐらがあった。このあたりから南の千歳通りまでは、昔のままの道幅で、住宅だけがどんどん造成された地域である。高層ビルも少ない。

### 廻澤仲通り

廻澤村のメイン通りで、かつては農家が点在し、店もあった。仲通りから環八の間はほとんど畑であったが、土地区画整理で6m以上の道路で区画され、高層ビルがどんどん造られている。

**瀧坂道** 古府中道とか、甲州中出道とも呼ばれた古道である。渋谷宮益坂下⇒経堂駅⇒八幡山⇒仙川へ。経堂駅から経堂小学校までは、商店街として早くから発展した。バスも通り、船橋5、6丁目の唯一の通勤道路だった。

- 仲通り
- 鎌倉道
- 瀧坂道
- 烏山川遊歩道
- 区画整理計画公園
- 学校



### 水道道路

荒玉町水道組合が昭和3年より水道管の布設を始め、道の姿ができた。正式に道路となったのは昭和35年である。大型車は入れなかったが、最近大型車も入れるところが増え、交通量は増え、自転車や歩くのが危険な状態になった。

### 区画整理と新道

希望丘土地区画整理事業は、昭和40年に発足し、平成2年に完成した。廻澤仲通りから東、補助54号線から南の廻澤町、船橋町(船橋6丁目、7丁目、4丁目の一部)八幡山町の一部、約85万㎡の地域を区画整理した。最初の幹線道路は環八であった。区域内の幹線道路として、希望丘通り、廻澤通り、補助54号線、補助215号線ができた。環八から東は、希望丘団地、希望丘公園、西濃運輸など、大規模な計画が多かったため、道路は少ないが、廻澤地区は公園とも、よい街路がつけられた。

明治初年ころの廻澤仲通り  
(廻澤村の歴史より写す)



### 編集後記

百何年振りと言われた酷暑にも やつと解放され、しのびやかな秋の気配。清々しい気を一ぱいに可能性にチャレンジして見ましょう。

「K・H記」